

教育・社会福祉専門課程「精神保健福祉学科」カリキュラム編成表（2024年～）

区 科 分 目	選 択 の 別 ・ 必 修	授 業 科 目	第1学年	授 業 時 数 計
			年 間 授 業 時 数	
共 通 科 目	必 修	医学概論（講義）	30	30
		心理学と心理的支援（講義）	30	30
		社会学と社会システム（講義）	30	30
		社会福祉の原理と政策（講義）	60	60
		地域福祉と包括的支援体制（講義）	60	60
		社会保障（講義）	60	60
		障害者福祉（講義）	30	30
		権利擁護を支える法制度（講義）	30	30
		刑事司法と福祉（講義）	30	30
		社会福祉調査の基礎（講義）	30	30
		ソーシャルワークの基盤と専門職（講義）	30	30
		ソーシャルワークの理論と方法（講義）	60	60
専 門 科 目	必 修	精神医学と精神医療（講義）	60	60
		現代の精神保健の課題と支援（講義）	60	60
		精神保健福祉の原理（講義）	60	60
		ソーシャルワークの理論と方法（専門）（講義）	60	60
		精神障害リハビリテーション論（講義）	30	30
		精神保健福祉制度論（講義）	30	30
実 習 演 習 科 目	必 修	ソーシャルワーク演習（演習）※共通科目	30	30
		ソーシャルワーク演習（専門）（演習）	90	90
		ソーシャルワーク実習指導（実習）	90	90
		ソーシャルワーク実習（実習）	210	210
必 修 科 目 授 業 数			1, 200	1, 200
選 択 科 目 授 業 数				
卒 業 に 必 要 な 総 授 業 数			1, 200	1, 200

※学則第15条第5項に該当する者は、履修を免除する。

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	巡回担当者		授業の日程と各回のテーマ・授業方法	
ソーシャルワーク実習		実習	岩城小百合 河原暢子		吉田充恵	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択			
現場実習 で210時間以上	210時間（うち90時間以上 精神科医療機関）	1 年	必修			
授業の目的・ねらい						
・ソーシャルワーク実習を通して、精神保健福祉士としてのソーシャルに係る専門的知識と技術の理解に基づき精神保健福祉の現場での試行と省察の反復により実践的な技術等を体得する。 ・精神疾患や精神障害、メンタルヘルスの課題をもつ人びとのおかれている現状に関する知識をもとに、その生活実態や生活上の課題についてソーシャルワーク実習を行う実習先において調査し、具体的に把握する。 ・実習指導者からのスーパービジョンを受け、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。						
授業全体の内容の概要						
実習先において、精神障害者やその関係者とかかわる中で、次に掲げる事項を経験し、実習指導者の指導を受ける。 ・精神科病院等での実習において、受診前・入院中・退院時・地域定着の段階の患者及びその家族への相談援助や多職種連携による支援、また病院外の関係機関及び地域住民との連携を通じたソーシャルワーク ・障害福祉サービス事業所等や精神科病院での実習において、利用者や関係者との基本的なコミュニケーションから、利用者理解・ニーズの把握を行い、相談支援計画を作成 ・精神医療・保健・福祉に係る相談支援におけるチームアプローチへの参加 ・実習先が地域社会で果たす役割を考察し、アウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発場面の観察 ・実習における学習成果を考察し、精神保健福祉士としての学習課題の明確化及び研鑽計画の立案						
授業修了時の達成課題（到達目標）			使用テキスト・参考文献		科目修了認定の方法及び基準	
これまでの学習で蓄積した専門性を体現・確認し、相談援助の専門職として、精神保健医療福祉の現場で実践できる力を身につける。			最新 精神保健福祉士養成講座⑧ 「ソーシャルワーク実習指導・実習」 （精神専門） 中央法規出版		・実習先からの評価表・ 自己評価・教員による評価 70% ・実習総括レポート 30%	

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者	授業の日程と各回のテーマ・授業方法	
ソーシャルワーク実習指導		講義・見学実習	岩城小百合 吉田充恵 河原暢子	1～3 オリエンテーション・精神保健福祉援助実習の意義について 4～6 見学実習先の事前学習、諸注意、見学後のレポート提出の説明 7～9 障害福祉サービス事業所の見学実習 10 実習先選定について 11 精神保健福祉の医療・福祉サービスについて(視聴覚教材) 12 精神保健福祉の医療・福祉サービスについての説明 13～15 精神科リハビリテーションの実際（特別講師によるプログラム体験） 16 実習計画書・実習プログラムの意義と作成方法について 17 実践における記録の意義 18 実習日誌の目的・内容・書き方指導・留意点、その他実習関係書類の作成指導 19-21 精神保健福祉センターの見学実習 22 個人情報の取り扱いについて(個人情報保護法等) 23 専門職としての守秘義務について(精神保健福祉士法・倫理綱領) 24 個人情報保護についての事例検討 25～26 事前訪問の目的・内容・諸注意 27 精神障害者やその環境の理解(視聴覚教材) 28～30 精神保健福祉士の業務の実際について(ベテラン精神保健福祉士による講義) 31～33 救護施設の見学実習 34～35 面接(利用者とのコミュニケーション含む)と記録の指導 36 巡回指導について(訪問指導・スーパーバージョン) 37 実習中の悩み・アクシデントへの対応 38 実習体験を踏まえた課題の整理の仕方・実習総括レポートの作成について 39～40 前期実習直前個別面談 41～43 精神保健福祉士の業務の実際について（卒業生による講義） 44 前期実習のふりかえり 45～47 実習報告会（1） 48～50 実習報告会（2） 51～52 前期実習の自己評価・教員との個別のふりかえり、後期実習先の選定 53～54 精神障害者家族の理解（精神障害者家族の方の講義） 55～56 後期実習のポイントについての説明 実習計画書・実習プログラムの作成 前期実習の経験をふまえ、後期実習先での課題達成のための方法を考える 地域生活支援について(視聴覚教材) 57 58～60 精神科病院を想定した、面接と記録・福祉サービスの活用の指導 61～63 当事者の理解(精神障害当事者の方の講義) 64～66 障害福祉サービス事業所を想定した、面接と記録・福祉サービス活用の指導 67～69 精神保健福祉士法や倫理綱領について(事例を用いて理解を深める) 70 後期実習の準備・事前指導 71～75 支援計画作成と他機関との連携について 76～77 後期実習のふりかえり 78～80 実習報告書作成、個別指導 81～85 実習報告書作成、個別指導、報告会準備 86～90 実習報告会	
授業の目的・ねらい					
・ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について理解する。 ・精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ・ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。 ・精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握など総合的に対応できる能力を習得する。 ・具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。					
授業全体の内容の概要					
次に掲げる事項について個別指導及び集団指導 ・個別指導及び集団指導の意義 ・精神保健医療福祉の現状（利用者理解含む）の基本的な理解 ・実習施設や地域社会等に関する基本的な理解 ・当事者の語りに触れる体験 ・見学実習 ・実習先で必要とされる精神保健福祉士としての専門的知識と技術に関する理解 ・精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解 ・個人のプライバシー保護と守秘義務の理解 ・実習における記録と記録方法の理解 ・実習計画の作成 ・巡回指導 ・課題の整理と実習総括レポートの作成 ・実習の評価全体総括会					
授業修了時の達成課題（到達目標）				使用テキスト・参考文献	科目修了認定の方法及び基準
講義や演習を基に、精神保健福祉士としての学びの集大成となるような実習につながるよう、ソーシャルワークの価値・倫理・知識・技術を、現在の精神保健医療福祉の現場に即した内容で理解する。				最新 精神保健福祉士養成講座⑧ 「ソーシャルワーク実習指導・実習」 （精神専門） 中央法規出版	出席、授業態度、提出物で総合的に評価する。

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者	授業の日程と各回のテーマ・授業方法	
ソーシャルワーク演習（専門）		演習	山本 純子		
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択	1	オリエンテーション 演習の意義と目的 演習の内容について 実践の原理・原則
3時間×30回	90時間	1 年	必修	2	ソーシャルワークの価値・原理・原則 事例（個別に対する相談援助）の理解
				3	個人に対する相談援助の理解（展開過程） 地域移行支援・地域定着支援
4 グループにおける相談支援の理解 GW					
5 コミュニティソーシャルワークの理解 GW					
6 家族からの精神科受診相談とインテーク面接 GW					
7 精神科デイケアにおける多機関連携による地域生活支援 GW					
8 精神科クリニックにおけるアルコール依存症者の回復に向けた支援 GW					
9 グループを活用した心理教育プログラムによる家族支援 GW					
10 DPATの受け入れによる被災地の精神科病院の受援活動 GW					
11 相談支援事業所における危機介入からの地域生活支援 GW					
12 就労移行支援事業所における措置入院からの就労支援 GW 中間試験					
13 前期実習後の振り返り					
14 相談支援事業所におけるピアサポーターの養成と活動支援 GW					
15 社会福祉協議会における精神保健福祉ボランティアの養成と普及啓発 GW					
16 訪問型の生活訓練事業を活用したひきこもりの若者支援 GW					
17 精神科病院からの地域移行支援と福祉サービスの利用支援 GW					
18 保健所における家族に対するかわりと受診・受療に向けた支援 GW					
19 精神医療審査会における退院請求への対応 GW					
20 心のケアセンターによる被災者支援とコミュニティ再生に向けた働きかけ、GW					
21 市町村の協議会（精神の部会）における障害福祉計画の立案 GW					
22 市町村における生活困窮者への地域生活支援 GW					
23 児童虐待が疑われる要援護児童とその家族への支援					
24 メンタルヘルス課題のある中学生への多職種・多機関連携による支援、GW					
25 合理的配慮に基づく学生支援と就業・生活支援センターにおける就労支援 GW					
26 地域生活定着支援センターにおける触法障害者への支援 GW					
27 医療観察法に基づく社会復帰調整官を中心とした多職種連携による支援 GW					
28 EAP機関における勤労者の休職・復職支援 GW 修了試験					
29 企業における合理的配慮に基づく障害者雇用に向けた支援 GW					
30 後期実習後の振り返り ソーシャルワーク実践のための力の獲得					
授業修了時の達成課題（到達目標）				使用テキスト・参考文献	
精神保健福祉士の専門性に基づく実践に必要なソーシャルワークの視点と価値、理論や知識、援助技術を包括的に実践的に習得する。				科目修了認定の方法及び基準	
精神保健福祉士の専門性に基づく実践に必要なソーシャルワークの視点と価値、理論や知識、援助技術を包括的に実践的に習得する。				最新 精神保健福祉士養成講座⑦ 「ソーシャルワーク演習」（精神専門） 中央法規出版	
				試験60%、出席20%、授業態度20%	

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者	授業の日程と各回のテーマ・授業方法	
ソーシャルワーク演習		演習	岩城 小百合	1 ① オリエンテーション ソーシャルワーク演習とは ② ソーシャルワーク演習を通して学ぶこと ③ 人と環境の交互作用 2 ④ バイオ・サイコ・ソーシャルモデルによる理解 ⑤ 自己理解と他者理解 ⑥ 援助者としての自己の理解 3 ⑦ ソーシャルワークの対象 ⑧ ソーシャルワークの価値基準および倫理、理念 ⑨ ソーシャルワークの機能とソーシャルワーカーの役割 4 ⑩ コミュニケーション技術 ⑪ 面接技術 ⑫ 面接技術（ロールプレー） 5 ⑬ ソーシャルワークの展開過程（インテーク）事例 ⑭ インテーク面接演習 ⑮ 振り返り → 教員からの講評 6 ⑯ ソーシャルワークの展開過程（アセスメント）事例 ⑰ アセスメントシート作成 ⑱ 振り返り→教員からの講評 7 ⑲ ソーシャルワークの展開過程（プランニング）事例 ⑳ 社会資源の理解及び支援計画作成 ㉑ 振り返り→教員からの講評 8 ㉒ ソーシャルワークの展開過程（支援の実施・モニタリング・終結・アフターケア） ㉓ 事例検討 ㉔ 事例検討 9 ㉕ 修了試験 ㉖ 修了試験 ㉗ スーパービジョン 1 0 ㉘ 修了試験解答・解説 ㉙ まとめ（福祉専門職としての専門性・援助の方法） ㉚ まとめ（地域共生社会の実現に向けた支援）	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択		
3時間×10回	30時間	1 年	必修		
授業の目的・ねらい					
・ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。 ・ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。 ・ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。 ・ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。					
授業全体の内容の概要					
個別指導・集団指導を通して具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とした演習 ・自己覚知 ・基本的なコミュニケーション技術 ・基本的な面接技術 ・ソーシャルワークの展開過程 ・ソーシャルワークの記録 ・グループダイナミックスの活用 ・プレゼンテーション技術					
授業修了時の達成課題（到達目標）					
さまざまな科目で学習したソーシャルワークの専門性を構成する価値・知識・技術を総合的・包括的に用いる能力を獲得し、科目の枠を越えて、課題や実践について概念化し、体系的に理解できるようになる。					
使用テキスト・参考文献		科目修了認定の方法及び基準			
最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座⑬ 「ソーシャルワーク演習」（共通科目） 中央法規出版		試験70%、実技30%で評価する。			

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者	授業の日程と各回のテーマ・授業方法	
精神保健福祉制度論		講義	河原 暢子	01 精神障害者に関する制度・施策の体系 02-03 精神障害者に関する制度の成立過程とその特徴 04-08 精神障害者の医療に関する制度 1 精神保健福祉法の概要 09-10 精神障害者の医療に関する制度2 医療計画・自殺対策等 11-13 精神障害者の医療に関する制度3 医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割 14-15 精神障害者の医療に関する制度4 障害者差別解消法、障害者虐待防止法など 16-18 精神障害者の生活支援に関する制度 1 障害者総合支援法を中心に 19 精神障害者の生活支援に関する制度2 相談支援制度 20 精神障害者の生活支援に関する制度3 居宅支援制度 21-22 精神障害者の生活支援に関する制度4 就労支援制度 23-24 精神障害者の経済的支援1 障害年金 社会手当 25 精神障害者の経済的支援2 医療保険 26-28 精神障害者と生活困窮1 生活保護制度 29 精神障害者と生活困窮2 生活困窮者自立支援制度 低所得者対策 30 修了試験 まとめ	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択		
2時間×15回	30時間	1年	必修		
授業の目的・ねらい					
・精神障害者に関する法制度の体系について理解する。 ・精神保健福祉法、医療観察法等の医療に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。 ・生活支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。 ・生活保護制度や生活困窮者自立支援制度等の経済的支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。 ・障害者に関する法制度を適切に活用でき、法制度の限界と課題について考えることができる。					
授業全体の内容の概要					
・精神障害者に関する法律の体系 ・精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割 ・医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割 ・精神障害者の医療に関する課題 ・相談支援制度と精神保健福祉士の役割 ・居宅支援制度と精神保健福祉士の役割 ・就労支援制度と精神保健福祉士の役割 ・精神障害者の生活支援制度に関する課題 ・生活保護制度と精神保健福祉士の役割 ・生活困窮者自立支援制度と精神保健福祉士の役割 ・低所得者対策と精神保健福祉士の役割 ・精神障害者の経済的支援制度に関する課題					
授業修了時の達成課題（到達目標）				使用テキスト・参考文献	科目修了認定の方法及び基準
精神保健福祉施策の概要について、精神保健福祉の関連施策について理解する。				最新 精神保健福祉士養成講座④（第2版） 「精神保健福祉制度論」 中央法規出版	試験70%、出席30%

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者	授業の日程と各回のテーマ・授業方法	
精神障害リハビリテーション論		講義	吉田 充恵	1 精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク 2 精神障害リハビリテーションの理念・定義 医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション 3 精神障害リハビリテーションの基本原則 地域及びリカバリー概念を基盤としたリハビリテーションの意義 4 精神障害リハビリテーションの対象 チームアプローチ プロセス 5 医学的リハビリテーションプログラム 6 職業的リハビリテーションプログラム（概要・歴史的展開・支援の対象等） 7 職業的リハビリテーションプログラム（プログラム・実施機関・障害者雇用の仕組み） 8 社会的リハビリテーションプログラム（SST・心理教育・生活訓練・地域移行） 9 社会的リハビリテーションプログラム（WRAP・当事者研究・実施機関） 10 教育的リハビリテーションプログラム 11 家族支援プログラム 12 リハビリテーションに用いられるその他の手法・プログラム 13 精神障害当事者や家族を主体としたリハビリテーション 14 依存症のリハビリテーション 15 試験 まとめ	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択		
2時間×15回	30時間	1年	必修		
授業の目的・ねらい					
・精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できる。 ・精神障害リハビリテーションプログラムの知識を援助場面で活用できる。 ・精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について理解し、援助場面で活用できる。					
授業全体の内容の概要					
・精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則 ・精神障害リハビリテーションの構成及び展開 ・精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関 ・精神障害リハビリテーションの動向と実際					
授業修了時の達成課題（到達目標）				使用テキスト・参考文献	科目修了認定の方法及び基準
精神障害リハビリテーションは、時代の変化と共に新しい取り組みが開発されてきている。社会の変化に対応するために求められるようになった精神障害リハビリテーションと、拡大する精神保健福祉士の役割について理解し、精神保健医療福祉分野で活用できるようになる。				最新 精神保健福祉士養成講座③ 「精神障害リハビリテーション論」 中央法規出版	試験80%、授業態度20%

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者	授業の日程と各回のテーマ・授業方法	
ソーシャルワークの理論と方法（専門）		講義	岩城 小百合	1 精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク（構成要素・展開過程） 2 精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本視点とミクロ・メゾ・マクロレベル 3 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法（援助関係の形成・インテーク） 4 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法（アセスメント） 5 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法（ミニ演習 まとめ） 6 面接技術とその応用 7 グループワーク 8 グループワーク（ミニ演習 まとめ） 9 アウトリーチ 10 支援の展開（人・環境へのアプローチ）事例分析 11 支援の展開（ケアマネジメント） 12 支援の展開（ケアマネジメントのミニ演習） 中間試験 13 精神保健福祉分野における家族支援の実際（精神障害者家族の課題） 14 精神保健福祉分野における家族支援の実際（家族理解の変遷） 15 精神保健福祉分野における家族支援の実際（家族支援の方法） 16 精神保健福祉分野における家族支援の実際（家族支援ミニ演習 まとめ） 17 コミュニティワーク 18 ソーシャルアクションへの展開（基本的視点・個別支援から地域における体制整備） 19 ソーシャルアクションへの展開（政策提言・政策展開 グループ学習） 20 ソーシャルアクションへの展開（精神障害者の地域移行・地域定着に関わる展開 事例分析） 21 チームアプローチ（意義と目的 留意点） 22 チームアプローチ（チームビルディング 形態と特徴） 23 連携における精神保健福祉士の役割 24 多職種連携・多職種連携の実際 事例分析 25 ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義 26 ソーシャルアドミニストレーションの展開方法 人材確保と人材育成 27 精神保健福祉士の実践展開（学校・教育分野 産業分野） 28 精神保健福祉士の実践展開（司法分野 災害分野） 29 修了試験 30 まとめ	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択		
2時間×30回	60時間	1年	必修		
授業の目的・ねらい					
・精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。 ・精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。 ・精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。 ・精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。 ・個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。 ・精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する。					
授業全体の内容の概要					
・精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要 ・精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程 ・精神保健福祉分野における家族支援の実際 ・多職種連携・多機関連携（チームアプローチ） ・ソーシャルアドミニストレーションの展開方法 ・コミュニティワーク ・個別支援からソーシャルアクションへの展開 ・関連分野における精神保健福祉士の実践展開					
授業修了時の達成課題（到達目標）				使用テキスト・参考文献	科目修了認定の方法及び基準
今日、精神保健福祉に係る課題が刻々と変化する中、他の指定科目の内容を横断的・俯瞰的に把握し、精神保健医療福祉分野はもちろんのこと、他の専門職や当事者・地域住民との連携、協働をとおして、精神障害者とその家族及び地域社会に対する支援を、理論と実践方法から理解する。				最新 精神保健福祉士養成講座⑥ 「ソーシャルワークの理論と方法 精神専門」 中央法規出版	試験70% 出席・授業態度30%

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者	授業の日程と各回のテーマ・授業方法	
精神保健福祉の原理		講義	岩城 小百合	01 精神保健福祉の原理とは何か 学びのポイント 02 障害の捉え方と障害者福祉の理念 03 精神障害者福祉の歴史的展開 04 制度における「精神障害者」の定義 05 国際生活機能分類（ICF）と精神障害 06 精神障害の「障害特性」 07 精神障害の理解と支援にかかわる新たな潮流 08 諸外国における排除の歴史とその後の展開 09 日本における排除の歴史と構造 10 日本の社会的障壁をめぐる課題とその克服への取り組み 11 精神科医療による生活への影響 12 精神障害者の家族が置かれている状況 13 精神障害者の社会生活の実態 14 メンタルヘルスをめぐる新たな課題 15 アディクションとメンタルヘルス課題 中間試験 16 精神保健福祉の原理が培われた足跡・過程 17 精神保健福祉士の国家資格制度化がもたらしたもの 18 精神保健福祉士による実践の価値・原理 19 精神保健福祉士による実践の視野や視点 20 エンパワメント・リカバリーの視点 21 援助における関係性 22 協働関係への理解 23 精神保健福祉士法の理解 24 社会福祉士及び介護福祉士法と精神保健福祉士法との関係 25 精神保健福祉士の倫理綱領について 26 ジレンマと倫理的ジレンマ 27 精神保健福祉士の業務特性と業務指針 28 精神保健福祉士の職場・職域 29 精神保健福祉士の業務内容・業務特性 30 修了試験 まとめ	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択		
2時間×30回	60時間	1年	必修		
授業の目的・ねらい					
・「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について理解する。 ・精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。 ・精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷もふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。 ・精神障害者のかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。 ・現在の精神保健福祉士の基本的枠組み（理論・視点・関係性）と倫理綱領に基づく職責について理解する。 ・精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。 ・近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。					
・障害者福祉の理念を学ぶ。 ・「障害」と「障害者」の概念を理解する。 ・社会的排除と社会的障壁を理解する。 ・精神障害者の生活実態を学ぶ。 ・「精神保健福祉士」の資格化の経緯と精神保健福祉の原理と理念を理解する。 ・「精神保健福祉士」の機能と役割を学ぶ。					
授業修了時の達成課題（到達目標）				使用テキスト・参考文献	科目修了認定の方法及び基準
・障害者福祉の理念を歴史的な展開から学び、対象者理解に繋げる。 ・精神障害者をめぐる歴史と構造を学び、精神障害者の社会的障壁を理解し、とその克服への取り組みを考える。 ・精神保健福祉士の役割と機能を理解する。				最新 精神保健福祉士養成講座⑤ 「精神保健福祉の原理」 中央法規出版	試験70%、出席30%

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者	授業の日程と各回のテーマ・授業方法	
現代の精神保健の課題と支援		講義	平野 正治	1精神保健の概要 2精神保健の動向 3精神保健活動の3つの対象 精神の健康に関する心的態度 生活と嗜好 4家族に関連する精神保健の課題と支援（家族関係における暴力 出産育児） 5"（介護 社会的ひきこもり） 6"（家族関係の課題 グリーフケア） 7"（精神保健支援を行う機関） 8精神保健の視点から見た学校教育の課題・アプローチ（学校教育の精神保健的課題） 9"（教員の精神保健 専門職と関係法規） 10"（スクールソーシャルワーカーの役割 社会資源） 11精神保健の視点から見た勤労者の課題・アプローチ（現代日本の労働環境） 12"（産業精神保健とその対策） 13"（職場のメンタルヘルス 関係機関 関係法規） 中間試験 14精神保健の視点から見た現代社会の課題・アプローチ（災害被災者 犯罪被害者等） 15"（自殺予防） 16"（身体疾患） 17"（貧困問題） 18"（社会的孤立） 19"（性的マイノリティ 多文化） 20"（反復違法行為 高齢化） 21精神保健に関する発生予防と対策（予防の考え方 アルコール・薬物依存対策等） 22"（うつ病と自殺予防 子育てと虐待予防 認知症） 23"（発達障害者 社会的ひきこもり 災害時） 24地域精神保健に関する偏見・差別等の課題（関係法規 人材育成 偏見・差別） 25精神保健に関する専門職種と国・都道府県・市町村・団体の役割及び連携（国の機関と役割 精神保健関係法規） 26"（多職種の役割と連携 行政機関の役割と連携） 27"（学会 啓発団体 セルフヘルプグループ等） 28諸外国の精神保健活動の現状及び対策（世界の精神保健の実情） 29"（WHOなどの国際機関 諸外国の精神保健医療の実情） 30修了試験 まとめ	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択		
2時間×30回	60時間	1年	必修		
授業の目的・ねらい					
・精神の健康について基本的な考え方と精神保健学の役割について理解する。 ・現代社会における精神保健の諸課題と、精神保健の実際及び精神保健福祉士の役割について理解する。 ・精神保健を維持、増進するために機能している専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。 ・国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。					
授業全体の内容の概要					
・精神の健康とライフサイクル、精神の健康に関する要因及び精神保健の概要 ・精神保健の視点から見た、家族の課題とアプローチ ・精神保健の視点から見た、学校教育の課題とアプローチ ・精神保健の視点から見た、労働者の課題とアプローチ ・精神保健の視点から見た、現代社会の課題のアプローチ ・精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割 ・地域精神保健の諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題 ・精神保健に関する専門職（保健師等）と国・都道府県・市町村・団体等の役割及び連携 ・諸外国の精神保健活動の現状と対策					
授業修了時の達成課題（到達目標）					
・精神保健福祉士がクライアント主体の支援をするために知っておくべき、現代社会の精神保健領域の状況・課題（社会環境問題）等、広範な知識を習得する。 ・精神保健活動の実際や課題、その中での精神保健福祉士の役割と、各専門機関、専門職種との連携について理解する。					

使用テキスト・参考文献	科目修了認定の方法及び基準
最新 精神保健福祉士養成講座② 「現代の精神保健の課題と支援」 中央法規出版	試験70%、出席30%

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者	授業の日程と各回のテーマ・授業方法	
精神医学と精神医療		講義	平野 正治	1 精神医学・医療の歴史（西洋の歴史・日本の歴史） 2 脳の構造・神経系の発生と構成 3 中枢神経系、末梢神経系 4 精神障害の概念 5 精神障害の成因と分類 6 精神疾患の診断の手順と方法 心理検査 脳検査 7 代表的な精神疾患（器質性精神障害） 8 "（精神作用物質使用による精神及び行動の障害） 9 "（統合失調症） 10 "（気分障害） 11 "（神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害） 12 "（生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群） 13 "（パーソナリティ障害と行動の障害） 14 "（知的障害） 中間試験 15 "（心理的発達の障害） 16 "（小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害） 17 精神疾患の治療（精神疾患治療総論） 18 "（精神科薬物療法） 19 "（精神療法） 20 "（身体療法 精神障害リハビリテーション） 21 精神科医療機関における治療の実際（外来治療、在宅医療） 22 "（入院医療ー1） 23 "（入院医療ー2） 24 "（医療観察法） 25 "（精神保健福祉士の役割と協働する職種） 26 精神医療と保健、福祉の連携（治療導入に向けた支援） 27 "（再発予防や地域生活に向けた支援） 28 精神医療の動向（精神疾患患者の動向） 29 "（医療制度改革と精神医療） 修了試験 30 "（医療機関の医療機能の明確化）	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択		
2時間×30回	60時間	1年	必修		
授業の目的・ねらい					
・代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援といった観点から理解する。 ・精神科病院等における専門治療の内容及び特性について理解する。 ・精神保健福祉士が、精神科チーム医療の一員として関わる際に担うべき役割について理解する。 ・精神医療・福祉との連携の重要性和精神保健福祉士がその際に担うべき役割について理解する。					
授業全体の内容の概要					
・精神疾患総論（代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む） ・精神疾患の治療 ・精神科医療機関の治療構造及び専門病棟 ・精神科治療における人権擁護 ・精神科病院におけるチーム医療と精神保健福祉士の役割 ・精神医療と福祉及び関係機関との間における連携の重要性					
授業修了時の達成課題（到達目標）				使用テキスト・参考文献	科目修了認定の方法及び基準
精神科疾患の成因、症状、経過、治療方法など、精神障害者や家族などへの支援をするための基本的な知識を身につける。 現代の精神科医療が、地域包括ケア中心になる事を知り、早期介入や再発予防、地域移行などを行っていく際の精神保健福祉士の役割や機能を理解する。				最新 精神保健福祉士養成講座① 「精神医学と精神医療」 中央法規出版	試験70%、出席30%

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者	授業の日程と各回のテーマ・授業方法	
ソーシャルワークの理論と方法		講義	吉田 充恵	1 ソーシャルワーカーが学ぶ理論 2 システム理論 生態学理論 3 バイオ・サイコ・ソーシャルモデル 4 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク 5 ソーシャルワークの目標と展開過程 6 ソーシャルワークの過程（ケース発見 インテーク） 7 ソーシャルワークの過程（アセスメントの意義・目的） 8 ソーシャルワークの過程（アセスメントの方法・留意点） 9 ソーシャルワークの過程（プランニング） 10 ソーシャルワークの過程（支援の実施とモニタリング） 11 ソーシャルワークの過程（終結、評価、アフターケア） 12 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ（治療モデル、ストレングスモデル等） 13 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ（ナラティブアプローチ等） 14 中間試験 15 ソーシャルワークの面接 16 ソーシャルワークの記録（意義・目的・内容） 17 ソーシャルワークの記録（フォーマットの紹介と簡単な演習） 18 ケアマネジメント（原則・意義と方法） 19 ケアマネジメント（簡単な演習） 20 グループを活用した支援（意義と目的） 21 グループを活用した支援（展開過程・セルフヘルプグループ） 22 グループを活用した支援（簡単な演習） 23 コミュニティワーク（意義と目的、地域アセスメント） 24 コミュニティワーク（地域アセスメントの演習） 25 コミュニティワーク（展開過程 理論的系譜とモデル） 26 ソーシャルアドミニストレーション 27 ソーシャルアクション 28 スーパービジョン 29 コンサルテーション 30 修了試験 まとめ	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択		
2時間×30回	60時間	1 年	必修		
授業の目的・ねらい					
・人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。 ・ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。 ・ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。 ・コミュニティワークの概念とその展開について理解する。 ・ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。					
授業全体の内容の概要					
・人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク ・ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ ・ソーシャルワークの過程 ・ソーシャルワークの記録 ・ケアマネジメント ・集団を活用した支援 ・コミュニティワーク ・スーパービジョンとコンサルテーション					
授業修了時の達成課題（到達目標）				使用テキスト・参考文献	科目修了認定の方法及び基準
ソーシャルワークのさまざまな理論（実践のよりどころ）と展開過程、実践方法等を学び、地域共生社会の実現に向けてソーシャルワーク実践ができるための基盤を身につける。				最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座⑫ 「ソーシャルワークの理論と方法 共通科目」 中央法規出版	試験70%、出席30%

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者	授業の日程と各回のテーマ・授業方法	
ソーシャルワークの基盤と専門職		講義	吉田 充恵	1 ソーシャルワーク専門職である社会福祉士・精神保健福祉士 2 社会福祉士及び介護福祉士法 3 精神保健福祉士法 4 社会福祉士および精神保健福祉士の専門性 5 社会福祉士・精神保健福祉士に求められるコンピテンシー 6 ソーシャルワークの概念 7 ソーシャルワークの構成要素 8 ソーシャルワークの原理 9 ソーシャルワークの理念 10 ソーシャルワークの源流と基礎確立期 11 ソーシャルワークの発展期と統合期 12 日本におけるソーシャルワークの形成過程 13 専門職倫理の概念 14 倫理的ジレンマ 15 修了試験、まとめ	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択		
2時間×15回	30時間	1 年	必修		
授業の目的・ねらい					
・社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。 ・ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。 ・ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。					
授業全体の内容の概要					
・社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ ・ソーシャルワークの概念 ・ソーシャルワークの基盤となる考え方 ・ソーシャルワークの形成過程 ・ソーシャルワークの倫理					
授業修了時の達成課題（到達目標）				使用テキスト・参考文献	科目修了認定の方法及び基準
・ソーシャルワーク専門職として社会福祉士、精神保健福祉士に必要なソーシャルワークに関する基礎的な学び、そして、将来ソーシャルワーカーとして働くための土台となる理念、倫理、総合的かつ包括的な支援の意義と内容と、そのために必要なジェネラリストの視点、および多職種や社会資源となる地域の人々等の連携・協働について学ぶ。				最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座⑪ 「ソーシャルワークの基盤と専門職 共通・ 社会専門」 中央法規出版	試験70%、出席30%

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者	授業の日程と各回のテーマ・授業方法	
社会福祉調査の基礎		講義	松尾 祐子	1 社会福祉調査の意義と目的 福祉サービスと社会福祉調査・歴史 2 統計法 社会福祉調査における倫理と個人情報保護 3 社会福祉調査における考え方・倫理 社会福祉調査のプロセス 4 社会福祉調査の目的と対象 社会福祉調査でのデータ収集・分析 5 量的調査の概要及び種類と方法 質問紙の作成方法と留意点 6 質問紙の配布と回収 量的調査の集計と分析 7 質的調査の概要と方法及びサンプリング 8 質的調査のデータ収集法 9 質的調査における記録の方法と留意点 10 質的調査のデータの分析方法（事例研究など） 11 質的調査のデータの分析方法（グラウンデッドセオリーアプローチ等） 12 社会福祉調査の実際（ミニ演習） 13 ソーシャルワークにおける評価 14 ソーシャルワークにおける評価対象 15 試験 まとめ	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択		
2時間×15回	30時間	1 年	必修		
授業の目的・ねらい					
・社会福祉調査の意義と目的について理解する。 ・社会福祉調査と社会福祉の歴史的関係について理解する。 ・社会福祉調査における倫理や個人情報保護について理解する。 ・量的調査の方法及び調査の結果について適切に理解する。 ・質的調査の方法及び調査の結果について適切に理解する。 ・ソーシャルワークにおける評価の意義と方法について理解する。					
授業全体の内容の概要					
・社会福祉調査の意義と目的 ・社会福祉調査における倫理と個人情報保護 ・社会福祉調査のデザイン ・量的調査の方法 ・質的調査の方法 ・ソーシャルワークにおける評価					
授業修了時の達成課題（到達目標）				使用テキスト・参考文献	科目修了認定の方法及び基準
地域共生社会の実現に向けたソーシャルワーク実践の基礎資料となる、ソーシャルワーク・リサーチの知識と技術を習得する。				最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座⑤ 「社会福祉調査の基礎」 中央法規出版	試験70%、出席30%

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者	授業の日程と各回のテーマ・授業方法	
刑事司法と福祉		講義	河原 暢子	1 刑事司法と福祉総論 2 社会と犯罪 犯罪とは何か 刑務所からみた日本の犯罪 3 犯罪原因論と対策 4 刑罰とは何か 刑罰制度の歴史 刑罰の本質と機能、種類の適用の状況 5 刑事司法 刑事手続きの概要、重要な原則 犯罪の成立要件と責任能力判断 6 少年司法 少年保護手続きの流れ 少年司法制度上の処分 7 施設内処遇①成人 矯正処遇の現状と課題 地域生活に向けた支援のあり方 8 施設内処遇②少年 少年に対する施設内処遇の特徴と実際 少年院在院者への社会復帰のあり方 9 社会内処遇①更生保護の理念と概要 更生保護制度の概要 更生保護におけるソーシャルワーカーの役割 10 社会内処遇②更生保護の実際 更生保護の実際 更生保護における関係機関のネットワーク構築 11 精神障害者を対象とした医療観察制度 医療観察制度の概要 社会復帰調整官の役割 地域におけるソーシャルワーカーの役割 12 高齢者・障害者による犯罪・非行と福祉 13 アディクションを抱える人と刑事司法 14 犯罪被害者等支援 犯罪被害者等支援に関する制度の概要、実際 15 コミュニティと刑事司法 修了試験	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択		
2時間×15回	30時間	1 年	必修		
授業の目的・ねらい					
・ 刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを理解する ・ 刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について理解する ・ 刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割について理解する					
授業全体の内容の概要					
・ 刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く環境 ・ 刑事司法 ・ 刑事事件の手続き、処遇 ・ 少年司法 ・ 少年事件の手続き、処遇 ・ 更生保護制度 ・ 医療観察制度 ・ 犯罪被害者支援					
授業修了時の達成課題（到達目標）				使用テキスト・参考文献	科目修了認定の方法及び基準
・ 刑事手続きの全体像を理解する。 ・ 多様なニーズを有する犯罪行為者や支援について理解する。 ・ 司法と福祉の連携の必要性について理解する。				最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座⑩（第2版） 「刑事司法と福祉」 中央法規出版	試験70%、出席30%

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者	授業の日程と各回のテーマ・授業方法	
権利擁護を支える法制度		講義	後藤 智	1法を学ぶ基礎（規範・体系・種類・機能 基礎知識・解釈 裁判制度と判例） 2社会福祉援助と法の関わり 憲法（基本的人権の尊重 個別の基本的人権の内容 基本的人権と社会福祉） 3" 民法（総則 物権と債権 債権の効力 契約 不法行為 事務管理 親族 相続） 4" 行政法（行政のあり方と行政行為 行政救済制度） 5権利擁護の意義と支援制度（権利擁護の必要性 福祉サービスの利用支援制度 福祉サービスの苦情解決に関わる制度 虐待防止法の概要 意思決定ガイドラインの概要） 6福祉サービスにおける権利擁護活動と法的課題（インフォームド・コンセント プライバシー・個人情報保護 権利擁護活動と社会の安全） 7権利擁護に関わる組織、団体、専門職（ソーシャルワーカーの役割 家庭裁判所・法務局の役割 市町村 社会福祉協議会の役割 権利擁護支援の地域連携ネットワークの中核機関） 8関） 9"（弁護士・司法書士の役割 市民後見人の役割 各種相談機関等） 10成年後見制度の概要（全体像 後見・保佐・補助の概要） 11"（法定後見の共通事項 任意後見の概要） 12"（成年後見制度の最近の動向 成年後見制度利用支援事業の概要 日常生活自立支援事業の概要） 13福祉サービス利用者の権利擁護活動の実際（成年後見事例 保佐事例） 14"（補助事例 任意後見事例） 15"（消費者被害支援事例 非行少年対応事例） 16"（孤立障害者対応事例） 修了試験	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択		
2時間×15回	30時間	1年	必修		
授業の目的・ねらい					
・法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の基礎を理解する。 ・権利擁護の意義と支える仕組みについて理解する。 ・権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。 ・権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法的観点から理解する。 ・ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解する。					
授業全体の内容の概要					
・法の基礎 ・ソーシャルワークと法の関わり ・権利擁護の意義と支える仕組み ・権利擁護活動で直面しうる法的諸問題 ・権利擁護に関わる組織、団体、専門職 ・成年後見制度					
授業修了時の達成課題（到達目標）					
ソーシャルワーカーの役割として挙げられる「権利擁護」について、それにかかわる重要な概念や法制度、関係機関との連携などを理解する。					
使用テキスト・参考文献		科目修了認定の方法及び基準			
最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座⑨（第2版） 「権利擁護を支える法制度」 中央法規出版		試験70%、出席30%			

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者	授業の日程と各回のテーマ・授業方法	
障害者福祉		講義	神通 一仁	1 障害概念と特性（障害者の定義と特性） 2 "（国際生活機能分類と障害の社会モデル） 障害者福祉の理念（障害者観の変遷） 3 "（障害者福祉の理念） 障害者福祉の歴史（障害者処遇の変遷） 4 "（障害者福祉制度と発展過程及び当事者運動） 5 "（障害者権利条約と障害者基本法） 障害者の生活実態と社会環境・課題（障害者の生活実態） 6 "（障害者と家族 社会環境と課題） 7 障害者に対する法制度（法制度の全体像 身体障害者福祉法 知的障害者福祉法 精神保健福祉法 児童福祉法） 8 "（発達障害者福祉法 障害者総合支援法） 9 "（障害者虐待防止法 障害者差別解消法 バリアフリー法） 10 "（障害者雇用促進法 障害者優先調達推進法） 11 障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割（関係機関の役割） 12 "（関連する専門職の役割） 13 障害者と家族等に対する支援の実際（ソーシャルワーカーの役割） 14 "（他職種連携含む支援の実際） 15 修了試験 まとめ	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択		
2時間×15回	30時間	1年	必修	授業の目的・ねらい	
・障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。 ・障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解する。 ・障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。 ・障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。				授業全体の内容の概要	
・障害概念と特性 ・障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境 ・障害者福祉の歴史 ・障害者に対する法制度 ・障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割 ・障害者と家族等に対する支援の実際				授業修了時の達成課題（到達目標）	
地域共生社会の実現に向けて、ソーシャルワーカーが、障害のある人（生活問題のベースに障害があるケース含む）への支援をしていくために、障害概念と特性、理念、生活実態や課題を学び、法制度の詳細や支援の実際について理解する。				最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座⑧ （第2版） 「障害者福祉」 中央法規出版	
				試験70%、出席30%	

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者	授業の日程と各回のテーマ・授業方法	
社会保障		講義	清水 剛志	1～2 現代社会と社会保障（社会保障の理念と機能） 3～4 社会保障の概念や対象及びその理念 5～6 社会保障制度の展開 7～8 日本の社会保障の展開 9～10 社会保障の財政 11～12 社会保険と社会扶助 13～14 社会保険方式と社会扶助方式 社会保険と民間保険の現状 15～16 医療保険制度の概要・体系・類型 17～18 医療保険給付の種類と内容 医療保険の各制度の財源と保険財政 19～20 介護保険制度の沿革・概要 21～22 介護保険制度の概要 23～24 地域包括ケア・介護報酬 中間試験 25～26 年金制度の概要 公的年金の意義・特徴 公的年金制度の沿革 27～28 公的年金（加入と負担 老齢年金 遺族年金 障害年金） 29～30 企業年金と個人年金 最近の改正と課題 31～33 労働保険制度の概要 労働者災害補償保険制度（概要・保険給付） 34～36 雇用保険制度（概要・保険給付） 37～39 生活保護制度 生活困窮者自立支援事業 40～42 社会手当制度 43～45 社会福祉制度の概要・基本法（社会福祉法） 46～48 社会福祉制度（高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉） 49～51 諸外国の社会保障 52～54 社会保障の国際比較・国際化 55～57 各種保険制度 修了試験 58～60 社会保障制度・社会福祉 まとめ	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択		
2～3時間×25回	60時間	1年	必修		
授業の目的・ねらい					
・ 社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解する。 ・ 現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解する。 ・ 社会保障制度の財政について理解する。 ・ 公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。 ・ 社会保障制度の体系と概要について理解する。 ・ 諸外国における社会保障制度の概要について理解する。					
授業全体の内容の概要					
・ 現代社会における社会保障制度の現状（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。） ・ 社会保障の概念や対象及びその理念 ・ 社会保障と財政 ・ 社会保険と社会扶助の関係 ・ 公的保険制度と民間保険制度の関係 ・ 社会保障制度の体系 ・ 諸外国における社会保障制度					
授業修了時の達成課題（到達目標）				使用テキスト・参考文献	科目修了認定の方法及び基準
現代社会の変化が社会保障に与える影響と課題を理解する。その上で、社会保障の概念や対象、理念、財政について確認し、各種社会保障制度の概要を理解する。また、国際化のなかでの我が国の社会保障を理解するために、諸外国の制度や国際比較を知る。				最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座⑦（第2版） 「社会保障」 中央法規出版	試験70%、出席30%

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者	授業の日程と各回のテーマ・授業方法	
地域福祉と包括的支援体制		講義	神通一仁・福井淳夫	1 地域社会の概念と理論 2 地域生活課題の現状とニーズ 3 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制 地域包括ケアシステムの考え方 4 生活困窮者自立支援の考え方 5 包括的支援体制とは 6 地域共生社会の実現に向けた各種施策 7 地域福祉ガバナンスと他機関協働 8 他機関協働を促進する仕組み 9 地域福祉の基本的な考え方（概念と理論） 10 地域福祉の歴史 11 地域福祉の推進主体（地方自治体） 12 "（民間組織） 13 地域福祉の主体と福祉教育 中間試験 14 地域を基盤としたソーシャルワークの展開 15 住民の主体形成に向けたアプローチ 16 災害時における総合的かつ包括的な支援体制 17 非常時や災害時における法制度 18 非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援 19 福祉計画の意義と種類、策定と運用 20 福祉計画の定義、目的、機能と歴史的展開 21 市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の内容 22 福祉計画の策定と方法 23 福祉計画におけるニーズ把握の方法・技術 24 福祉計画における評価 25 福祉行財政システム 26 国の役割 27 都道府県の役割 28 市町村の役割 29 福祉行政の組織および専門職の役割 30 福祉における財源 修了試験	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択		
2時間×30回	60時間	1年	必修		
授業の目的・ねらい					
・地域福祉の基本的考え方、展開、動向について理解する。 ・地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。 ・地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解する。 ・地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。 ・包括的支援体制の考え方と、多職種及び他機関協働の意義と実際について理解する。 ・地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。					
授業全体の内容の概要					
・地域福祉の基本的考え方 ・福祉行財政システム ・福祉計画の意義と種類、策定と運用 ・地域社会の変化と多様性・複雑化した地域生活課題 ・地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制 ・地域共生社の実現に向けた他機関協働 ・災害時における総合的かつ包括的な支援体制 ・地域福祉と包括的支援体制の課題と展望					
授業修了時の達成課題（到達目標）					
地域社会で発生する問題に向き合う為に、包括的支援体制と地域福祉の考え方を学ぶとともに、それらを推進する上で欠かせない福祉行財政と福祉計画を理解する。その上で、ソーシャルワークの価値・倫理、理論・モデル・アプローチ、スキルを学び、ソーシャルワーカーとして地域で発生した問題に取り組み、誰もが安心してその人らしく暮らし続けられる地域社会を目指す。					
使用テキスト・参考文献		科目修了認定の方法及び基準			
最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座⑥ 「地域福祉と包括的支援体制」		試験70%、出席30%			

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者	授業の日程と各回のテーマ・授業方法	
社会福祉の原理と政策		講義	野田 秀孝	1 オリエンテーション 社会福祉の原理 社会福祉の歴史を学ぶ視点 2 社会福祉の歴史（欧米の社会福祉の歴史的展開） 3 社会福祉の歴史（日本の社会福祉の歴史的展開） 4 社会福祉の思想・哲学 5 社会福祉の理論 6 社会福祉の論点 対象とニーズ 7 現代における社会問題（貧困・失業・社会的孤立など） 8 現代における社会問題（依存症・自殺・ニューリスクなど） 9 社会問題の構造的背景 1 0 福祉政策とは何か 1 1 福祉政策において重要な概念・理念 1 2 福祉政策におけるニーズ（ニーズとデマンドなど） 1 3 福祉政策におけるニーズ（ニーズの把握・種類など） 1 4 福祉政策における資源 中間試験 1 5 福祉政策の構成要素 1 6 福祉政策の過程と評価 1 7 福祉政策と包括的支援の現状 1 8 福祉政策と包括的支援の課題 1 9 福祉政策と関連施策（保健福祉政策・教育政策） 2 0 福祉政策と関連施策（住宅政策） 2 1 福祉政策と関連施策（労働政策） 2 2 福祉政策と関連施策（災害政策） 2 3 福祉供給部門 2 4 福祉供給過程 2 5 福祉利用過程 2 6 国際比較の視点と方法 2 7 福祉政策の動向：欧米 2 8 福祉政策の動向：東アジア 2 9 福祉政策の新しい潮流と国際比較の新しい課題 まとめ 3 0 修了試験	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択		
2時間×30回	60時間	1年	必修		
授業の目的・ねらい					
・社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解する。 ・社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。 ・社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について理解する。 ・福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解する。 ・福祉政策の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解する。 ・福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。 ・福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。					
授業全体の内容の概要					
・社会福祉の原理 ・社会福祉の歴史 ・社会福祉の思想・哲学、理論 ・社会問題と社会構造 ・福祉政策の基本的な視点 ・福祉政策におけるニーズと資源 ・福祉政策の構成要素と過程 ・福祉政策の動向と課題 ・福祉政策と関連施策 ・福祉サービスの供給と利用過程 ・福祉政策の国際比較					
授業修了時の達成課題（到達目標）				使用テキスト・参考文献	科目修了認定の方法及び基準
ソーシャルワークの専門的な学びの根幹として、社会福祉・福祉政策の理論や理念、歴史に關する基本的内容とその今日的な展開、動向、課題についての事実や現状を理解する。				最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 ④ 「社会福祉の原理と政策」 中央法規出版	試験70%、出席30%

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者	授業の日程と各回のテーマ・授業方法	
社会学と社会システム		講義	永井 広克	1 社会学の視点（社会学の意義と対象 社会学の歴史） 2 社会構造と変動（社会システム、組織と集団） 3 " （人口 グローバリゼーション） 4 " （社会変動） 5 " （地域） 6 " （環境） 7 市民生活と公共性（社会的格差 社会政策と社会問題） 8 " （差別と偏見 災害と復興） 9 生活と人生（家族とジェンダー 健康） 10 " （労働） 11 " （世代） 12 自己と他者（自己と他者） 13 " （社会化 相互行為） 14 " （社会的ジレンマ） 15 社会学と社会福祉学の連携 修了試験	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択		
2時間×15回	30時間	1年	必修		
授業の目的・ねらい					
・現代社会の特性を理解する。 ・生活の多様性について理解する。 ・人と社会の関係について理解する。 ・社会問題とその背景について理解する。					
授業全体の内容の概要					
・社会学の視点 ・社会構造と変動 ・市民社会と公共性 ・生活と人生 ・自己と他者					
授業修了時の達成課題（到達目標）				使用テキスト・参考文献	科目修了認定の方法及び基準
ソーシャルワーク実践をしていくにあたり、個人を支援するだけでは不十分であり、生活問題の要因を「社会」の中に見出し、把握することが重要である。ソーシャルワークにとって必要な現代社会の現実や問題の把握に関する基本的な知識を身につける。				最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座③ 「社会学と社会システム」 中央法規出版	試験70%、出席30%

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者	授業の日程と各回のテーマ・授業方法	
心理学と心理的支援		講義	橋本 順子	1心理学の視点 2人の心の基本的な仕組みと機能（心の生物学的基盤） 3 - 4"（感情・動機付け・欲求 感覚・知覚） 5 - 7"（学習・行動 認知 知能・パーソナリティ） -（社会の中での心理） 8 - 9人の心の発達過程（生涯発達 心の発達の基盤） 10 - 12"（ワークショップ） 13 - 14日常生活と心の健康（心の不適応） 15 - 16"（健康生成論） 17 - 19心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本 -（アセスメントと基本的技法） 20 - 22"（心理療法におけるアセスメントと介入技法の概要） 23"（心理の専門職） 24ソーシャルワークと心理学（子ども・家庭福祉） 25"（高齢者福祉） 26"（障害児・者福祉） 27"（精神保健福祉） 28"（支援者支援福祉） 29"（制度利用と心理的ケア） 30修了試験 まとめ	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択		
3時間×10回	30時間	1年	必修		
授業の目的・ねらい					
・人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解する。 ・人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解する。 ・日常生活と心の健康との関係について理解する。 ・心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解できる。					
授業全体の内容の概要					
・心理学の視点 ・人の心の基本的な仕組みと機能 ・人の心の発達過程 ・日常生活と心の健康 ・心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本					
授業修了時の達成課題（到達目標）					
ソーシャルワーカーとして、対象者を支援する前提として、その背景にある思考や感情等に関する心理的理解を深めることが必要である。ソーシャルワーク実践において求められる心理学の基本的知識（人間の心理機能や発達過程など）を理解し、支援に役立つ考え方や方法を身につける。					
使用テキスト・参考文献		科目修了認定の方法及び基準			
最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座② 「心理学と心理的支援」 中央法規出版		テストと出席状況により評価する。			

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者	授業の日程と各回のテーマ・授業方法	
医学概論		講義	太田 雅也	1 ライフステージにおける心身の特徴・健康課題 2 心身の加齢・老化 ライフステージ別の健康課題 3 健康（ICF ICD） 人体の名称 4 消化器 呼吸器 泌尿器 生殖器 5 内分泌 神経系 感覚器 皮膚 血液 6 疾病の発生原因と成立機序 7 リハビリテーション 8 感染症 神経疾患 9 脳血管疾患 心疾患 10 内分泌・代謝疾患 呼吸器疾患 11 腎疾患 消化器疾患、 12 血液・アレルギー疾患 眼科・耳鼻科疾患 13 口腔歯科疾患 産科婦人科疾患 精神疾患 14 小児科疾患 高齢者疾患 修了試験 15 公衆衛生 試験解説	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択		
2時間×15回	30時間	1年	必修		
授業の目的・ねらい					
・人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解する。 ・健康・疾病の捉え方について理解する。 ・人の身体構造と心身機能について理解する。 ・疾病と障害の成り立ち及び回復過程について理解する。 ・公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を理解する。					
授業全体の内容の概要					
・ライフステージにおける心身の変化と健康課題 ・健康及び疾病の捉え方 ・身体構造と心身機能 ・健康の捉え方 ・疾病と障害の成り立ち及び回復過程 ・公衆衛生					
授業修了時の達成課題（到達目標）				使用テキスト・参考文献	科目修了認定の方法及び基準
ソーシャルワーカーとして将来かかわることになる支援対象者を保健医療の視点から理解し、対処することを支援することができるよう基本的知識を身につける。人のライフステージを踏まえた健康課題及び疾病と障害、リハビリテーション、公衆衛生などについて理解する。				最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座① 「医学概論」 中央法規出版	試験70%、出席30%